

夏は終わらない その4

「8月」＝葉月がやってきました。

7月20日と21日は、福島県の教員採用第一次試験でした。小学校教諭の採用が来年度は300人となり、倍率が1,8倍となりました。例年と比べても、倍率が低下しました。同じように、あと何年後かには、中学校や高等学校の教諭も大量採用時代の教員が定年を迎え、倍率が低下すると予想されます。

一説によれば、東京都や関東圏の教員採用は、1倍になるかどうかの世界であるということです。

次の時代の福島県の子供たちに寄り添う教員の仕事を選択する高校生が求められています。

ところで、教員採用試験に集まった受験生たちを試験の監督者として教壇から見ると、受かる人とそうでない人がその顔つきですぐにわかることを皆さんご存知ですか。

表情がきりりと引き締まって、この試験に絶対に合格するという人の顔は、他から比べ、すぐにわかるものです。

同じように、大学の試験の時にも、おおよそ、その人物が合格圏内かそうでないかはすぐにわかります。表情が違うのです。決意に満ち溢れているのです。かといってせせこましくもなく、あわててもいず、焦りもなく、淡々としていながら気力が全身からほとばしるのです。

倍率が10倍なら、一つの教室で合格するのは、多くても5,6人でありますが、ほとんど間違いなくその姿で予想できるものです。

高校入試は、教室の中で5,6人が不合格になるという競争から、大学入試においては、5,6人のみが合格するという現実には代わるのです。このことは大きなことです。

ところが、100人合格するという場合、受験生は1000人ぐらいいるのが普通ですから、その数に圧倒されるということがあります。しかし、実質の倍率は、4～5倍です。大学によっては、時には、2倍ぐらいの現実であることも多いのです。

しっかりと自分ができていることを確実に進めるのか、できないことばかりを前面に出して苦しむのか、総合的に判断するのか、あることにこだわって進めるのか、場合によっては、どちらもあるとは思いますが、こと、受験を前にしたときにおけるやることはやってきた自信のみが、受験を潜り抜ける大きな根拠であることは間違いのないことです。

やることをやると決めたように、自分が決然と進めていく時を重ねる。今はその時ですね。

